

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	0673000477
法人名	医療法人 徳洲会
事業所名	グループホーム ひまわりの丘
訪問調査日	平成 20年 10月 10日
評価確定日	平成 20年 11月 19日
評価機関名	株式会社 福祉工房

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0673000477		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホーム ひまわりの丘		
所在地 (電話番号)	山形県東田川郡庄内町松陽一丁目1番6 (電 話) 0234-45-1050		
評価機関名	株式会社 福祉工房		
所在地	宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目149		
訪問調査日	平成20年10月10日	評価確定日	平成20年11月19日

【情報提供票より】(20年 9月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 3月 26日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算 5 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) 改築
建物構造	鉄骨平屋建て	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円		その他の経費(月額)	12,000 円	
敷 金	有(円)		(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)		有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		750円		

(4) 利用者の概要(9月12日現在)

利用者人数		18 名	男性 0 名		女性 18 名
要介護1		0	名	要介護2	6 名
要介護3		5	名	要介護4	5 名
要介護5		2	名	要支援2	0 名
年齢	平均	86.3 歳	最低	75 歳	最高 103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 山形愛心会 庄内余目病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念でもある「生命を安心して預けられる施設」を目指し、医療との連携、防災の徹底、そして地域との連携がしっかりしている事業所である。利用者と職員は、何でも話せる関係が作られており、笑い顔があり、又、一人ひとりがしっかりとした主役になっている事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目: 外部4)
	前回での改善指摘事項はありませんでした。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 外部4)
	全職員に自己評価が渡され、チェックし管理者と話し合い、改善策に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一回開催され、地域の年長者はじめ行政の職員も出席。重要事項や町への要望事項等が話し合われている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 外部7, 8)
	意見箱の設置はしているが、家族からの意見、苦情は無い。家族会の会長が家族会で個々に聞き取りをしてくれている。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目: 外部3)
	町内の子供会の草取り、花植えを始め知的障害者施設「ひまわり」との交流、地域の学校の体験学習、知的障害者の就労支援を通して交流している。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	医療法人徳州会の理念を基本に「住みなれた地域でその人らしく」の理念を事業所の理念として掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の会で理念を話し合っている。管理者、職員とも「道に迷った時の道しるべ」という共通の認識を持ち、理念の実施に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の子供会の草取り、花植えを始め知的障害者施設「ひまわり」との交流、地域の学校の体験学習、知的障害者の就労支援を通して交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価が渡され、チェックし管理者と話し合い、改善策に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催され、地域の年長者はじめ行政の職員も出席。重要事項や町への要望事項等が話し合われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常時、質問、相談、報告、連絡がなされる関係が出来ている。又、事業所で「成年後見制度」の研修会も実施している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書発送時に居室担当者が状況報告を同封している。異動等報告の必要な事項については、隔月「ひまわり通信」で知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はしているが、家族からの意見、苦情は無い。家族会の会長が家族会で個々に聞き取りをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には異動は退職の時だけにしている。新人指導(プリセプター制度)を行うと共に各利用者のアセスメントを重視する指導をおこなっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年一回は県外への研修会に参加している。グループ法人(4老健)でも研修の機会があり、新人、中堅、役職者も年間必須研修の計画に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に入会している。庄内町、酒田市の地域密着型サービス事業者とも交流がある。町の集団指導、グループホーム大会でも意見交換し、積極的に交流している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の唄、慣わし、言い伝え、諺等の話を聞き一緒に笑ったり、泣いたりして過ごしている。又、洗濯、梅干作りや畑の作り方等を教えてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後、日々の生活の中から少しずつ利用者の意向や思いについて職員同士話し合いの中で引き出しているが、アセスメントはADLに偏っており、思いや意向を把握する部分が不足している。	○	利用者の思いや意向をよりよく把握するためにも、又、職員共通の情報を得るためにも、アセスメントのやり方の改善が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には電話で意向や思いを聞き、医師や看護師とも連携を取り、職員の日々の観察したことを計画作成にいかしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度ケアプラン評価、見直しを職員全員で行っている。急を要する場合は連絡ノートに記載、職員全員が把握できるようにしている。ミニプランを作り実施し、ケアプランのニーズに反映している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	かかりつけ医は利用者それぞれにあり、定期受診、往 診と半々の状況になっている。家族が通院する時は事 業所での日々の健康状態の記録を提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	入居時より重度化、終末期を家族と共に話し合い、方 針を作成し説明している。又、主治医や看護師、職員 等とも話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	プライバシー、個人情報の保護、接遇の研修は全職員 が受講する体制になっている。個人の尊厳を大切にす るということは全員認識している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	したいこと、したくないこと等は利用者にその都度、確 認して支援している。基本的には自分で決めその日の 暮らしをしている人が多い。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理で野菜の下ごしらえは利用者が主にやっている。利用者もその日によつての役割が出来る時出来ない時もあり、見極めを行った上で一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日から土曜日まで入浴可能となっている。入浴日はベット整備と着脱の計画をしている。入浴したがいらない人にも、声掛け等の工夫を行い入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の楽しみの計画が作成されている。手工芸が好きな方、調理に携わりたい方、台所の後片付けの役割のある方、それぞれに気晴らし、楽しみが持てるよう支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	レクリエーション委員会で年間行事計画を作成し季節ごとの外出をしている。散歩、買い物、日向ぼっこは希望があればいつでも出来るようにされている。又、職員の方からも声掛けの工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日中は玄関、居室共に鍵はかけられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと、年2回の避難訓練が実施されている。防災委員会主催で防災訓練、召集訓練も定期的に行われている。近隣の町内会との合同訓練も予定されている等、防災に関しては地域、警察、消防、家族会との連携が取れている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	老人保健施設の管理栄養士より定期的にメニューの点検をしてもらっている。摂取量は記録されており、かゆ食、ペースト、きざみ食と個人個人に合わせた支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所がホール脇なので煮付けや、味噌汁、茶碗の洗う音や匂いも感じられる。ホールには季節を感じられるように、利用者が作った作品が展示されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染のものが持ち込まれており居心地良く過ごせる配慮はされている。又、何かあるとかえって不穏になる方もいるため、職員は個人個人の状態を把握しそれぞれに対応されている。		